

# 優れた環境性能は、 時代をリードする車の使命でもある。

## トータルクリーンをめざして

トヨタは環境との調和を図った「トータルクリーン」の理念のもと、「開発・生産・使用・廃棄」のすべての過程で、人と地球にやさしい車づくりを進めています。生産分野はもちろん、1998年には、設計・開発分野において、自動車メーカーとして国内で初めてISO14001※1の認証を取得。また、全販売店が「環境ガイドライン※2」に沿った活動を展開するなど、多面的な角度から環境保全に取り組んでいます。

## 地球温暖化を防ぐために

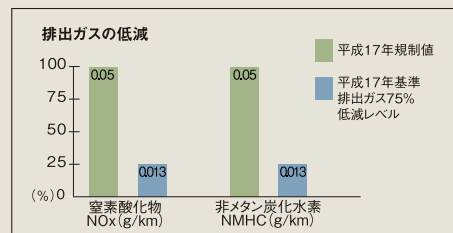
**燃費改善** 温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>排出量のさらなる低減をめざして、VVT-i、6速オートマチック(6 Super ECT)などパワートレイン系での取り組みのほか、低燃費タイヤなどの採用によって、徹底した燃費の改善を図りました。

**省冷媒化** エアコンの冷媒には、オゾン層を破壊しない代替フロンHFC-134aを採用。さらに、地球温暖化への影響を配慮し、冷媒の充填量を低減した省冷媒型エアコンを採用しています。



## 都市環境のクリーン化のために

**排出ガスのクリーン化** VVT-i、三元触媒、二次空気供給装置などの排出ガス浄化技術の最適化を図り、とくに冷間始動からの浄化能力を高めました。その結果、全車ともNO<sub>x</sub>(窒素酸化物)、NMHC(非メタン炭化水素)を平成17年規制より75%以上低減した「平成17年基準排出ガス75%低減レベル」の認定を国土交通省より取得しています。



## リサイクルと環境負荷物質削減のために

**リサイクル** 販売店から回収したバンパーをエンジンアンダーカバーなどに採用しています。

**環境負荷物質の削減** 鉛、水銀、カドミウム、六価クロムの使用量を削減し、業界目標を達成しています。

※1.ISO14001:国際標準化機構(ISO)が1996年9月に制定した環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格。環境負荷を継続的に低減できるシステムを構築した企業、自治体の組織などに認証が与えられます。※2.トヨタ販売店が自主的な環境対応に取り組む指針。

## トヨタ センチュリー 環境仕様

車 両 仕 様	車両型式		DBA-GZG50	
	エンジン	型式	1GZ-FE	
		総排気量 (L)	4.996	
	駆動装置	燃料	無鉛プレミアムガソリン	
駆動方式		2WD(後輪駆動方式)		
	変速機	6AT		
環 境 情 報	燃料消費率	JC08モード <sup>*1</sup> (国土交通省審査値)(km/L)		7.6
		CO <sub>2</sub> 排出量 (g/km)		305
		主要燃費改善対策		可変バルブタイミング、充電制御
	排出ガス	認定レベル(国土交通省)		SU-LEV <sup>*2 *3</sup>
		認定レベル値 (g/km)	CO	1.15
			NMHC	0.013
			NO <sub>x</sub>	0.013
	車外騒音	加速/定常/近接 (dB)	75/69/82	
	冷媒の種類 (GWP値 <sup>*4</sup> )/使用量 (g)	HFC-134a(1,430 <sup>*5</sup> )/900		
	環境負荷物質削減	鉛	自工会2006年自主目標達成(1996年比1/10以下 <sup>*6</sup> )	
		水銀	自工会自主目標達成(2005年1月以降使用禁止 <sup>*7</sup> )	
		カドミウム	自工会自主目標達成(2007年1月以降使用禁止)	
六価クロム		自工会自主目標達成(2008年1月以降使用禁止)		
リサイクル関係	リサイクル材の使用(リサイクル・ポリプロピレン)	エンジンアンダーカバーなど		

※1.燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。  
※2.平成17年基準排出ガス75%低減レベル。※3.JC08モード走行。  
※4.GWP:Global Warming Potential(地球温暖化係数)  
※5.フロン法において、カーエアコン冷媒は、2023年度までにGWP150以下(対象の乗用車における国内向け年間出荷台数の加重平均値)にすることを求められております。  
※6.1996年乗用車の業界平均1,850g(バッテリーを除く)。  
※7.交通安全の観点で使用する部品(ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージランプ、室内蛍光灯)を除く。